

平成31年度 学校評価計画書

石川県立金沢伏見高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1	より高い目標に挑戦する生徒を育成するとともに、その目標実現のために生徒一人ひとりに応じたきめ細かな進路指導を行う。	進路指導課 各学年	年間を通して面談を実施しているが、進路志望が明確になるまでに時間のかかる生徒が多い。一人ひとりの生徒の適性や能力をふまえ、適切な目標設定と将来の進路について考えるための情報を提供する必要がある。	【満足度指標】 各種ガイダンスや面談指導によって志望する進路先が具体的に示せるようになった生徒の割合が80%以上である。	担任との個人面談や進路ガイダンスにより、志望する進路先を明確にすることができた生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、面談内容や時期、および面談回数等、生徒への情報提供のあり方や意識づけ方法を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。
	② 地元で活躍できる人材の育成を図るため、地元県内大学を第一志望とする生徒と保護者に対し、年度当初より進路説明会を実施し、合格に向けての個別の取り組み（平日補習、土曜補習等）を行う。		県内大学を受験する生徒が多い。県内大学が難化傾向にあり、本校生徒の合格率に伸びがみられない。目標達成に向けた具体的な数値目標を提示することで、努力を続けるための意欲をサポートする必要がある。	【成果指標】 地元大学の第一志望の進路の合格率を高めるとともに、国公立大学志望者がねばり強く取り組めたか重視する。	地元大学の第一志望の上級学校等に合格・内定した生徒の合格率と、 （地元大学）A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 9月時点で国公立大学を志望した生徒のうち推薦・一般入試を受験した生徒の割合が （国公立大学の志望） A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合、次年度の取組を再検討する。	適正な進路目標を設定させたとうえで、3年次9月の進路希望調査における第一志望を元に年度末に進路状況を集計する。
2	教職員自らが資質向上に励み、不断の授業改善により生徒の学習意欲を高め自ら進んで学ぶ態度を育成する。	教務課 各教科	前年度は年間4回のグループ研修とまとめの全体研修を行うことで、授業改善に向けた教員間の意識は揃いつつある。教員が自信を持ち方向性の揃った指導を行うことで、生徒の学習意欲の向上に繋がっている。	【努力指標】 生徒の学びが主体的・対話的で深いものとなるような授業手法を取り入れている。	（生徒）本校の教員は、生徒が主体的に学習できる授業を行っていることと回答する生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 （教員）生徒の学びが主体的・対話的で深いものとなるような授業手法を取り入れていると回答する教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合、授業改善の状況、指導法を再検討する。	7月と12月に授業評価（生徒）、学校評価（教員）で調査する。
	② 低学年からの進路指導を意識して、学習時間調査や面談を活かし、生徒が見通しを持って家庭学習に取り組む態度を育て、学習習慣の定着を図る。		低学年からの学習習慣が身につけておらず、調査前、調査中の学習量も十分な量とは言えない。特に1年次の家庭学習量が少ない。計画的かつ継続的な学習習慣の定着が課題である。	【成果指標】 自ら継続的に家庭学習に取り組むことを重視する。2時間以上家庭学習をしている生徒の割合が60%以上である。	1日平均2時間以上、家庭で学習している生徒の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	C、Dの場合、学習指導のあり方を再検討する。	年5回、定期考査前に家庭学習時間調査を実施する。
3	教職員自らの勤務状況を見直し、業務改善を図ることにより、教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保する。	副校長 各課・学年主任	昨年度、教職員の時間外勤務月平均44.2時間、月あたり80～100時間は平均3.9人、100時間超は1.3人であり、これまでの働き方を見直すよう努めている。	【努力指標】 全教員が業務の効率化やタイムマネジメントの意識を高める。	（全教員）業務の効率化やタイムマネジメントの意識が高まったと考える教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合、次年度の取組を再検討する。	7月と12月に学校評価（教員）で調査する。
	② 各課・学年主任が業務の効率化やタイムマネジメントに積極的に取り組んでいる。		（各課・学年主任）主任を務める校務分掌において、業務の割り振りや効率化を図ることについて、 A：積極的に取り組んでいる。 B：取り組んでいる。 C：あまり取り組んでいない。 D：取り組んでいない。	A、Bが80%未満の場合、次年度の取組を再検討する。	7月と12月に各課・学年主任に調査する。		
4	規律ある安心できる学校生活の中であらゆる教育活動を通して、誠実で品位ある心豊かな生徒を育成する。	生徒課 各学年	昨年度の遅刻の延べ人数が前年比で33%減少した。大幅な減少ではあるが、時間を守るという意識をさらに高める必要がある。	【成果指標】 遅刻の延べ人数が昨年度の50%未満とする。	遅刻の延べ人数が30年度と比較して A：40%未満 B：50%未満 C：60%未満 D：60%未満	C、Dの場合、遅刻が常態化している生徒に対して、保護者及び外部機関等と協力して改善策を検討する。	毎日記録し、月ごとの集計により推移を注視する。
	② 自発的な挨拶、正しい言葉遣いなどを身につけ品位のある人間性を養う。		昨年度は自ら進んで挨拶をできる生徒の割合が84%であったが挨拶できない生徒もあり、挨拶が定着できるよう指導する必要がある。	【成果指標】 生徒が自ら進んで挨拶ができる。	自ら進んで挨拶できる生徒の割合が A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。
	③ いじめ防止に関する講話や教員対象の研修会などにより、生徒・教員ともにいじめに関する認識の向上を図り、いじめの起こらない雰囲気をつくる。		生徒課 保健相談課 各学年	「いじめは必ずある」という認識のもと、実態の把握に努め、個々の事案について、組織的かつ迅速に対応する。	【成果指標】 本校の「いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめやネットトラブルの未然防止に学校全体で組織的に取り組んでいると回答する教職員の割合が A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に学校評価（教員）で調査する。

平成31年度 学校評価計画書

石川県立金沢伏見高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
4 規律ある安心できる学校生活の中であらゆる教育活動を通して、誠実で品位ある心豊かな生徒を育成する。	④ 学校生活の中で、環境保全に対する生徒の意識を高め、実践する。	保健相談課 生徒課 各学年	清掃への取り組みやごみの分別など、環境保全に対する生徒の自己評価は高いが、ごみ出しマナーや学習環境の整備をさらに向上させる必要がある。	【成果指標】 ゴミの分別、教室やトイレの消灯が正しくなされている。	ゴミの分別、教室やトイレの消灯、校内の環境保全活動に積極的に取り組んでいる生徒の割合が A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。
	⑤ 部活動の加入率を高めて、学校全体の活性化を図る。また、生徒のバランスのとれた生活や成長に配慮しながら、部活動が適切に行われているか検証する。	生徒課 各学年 各部活動	昨年度の全体（1～3年）の部活動加入率は80%である。多くの生徒が「部活動が学校生活を活力あるものになっている」と回答しており、生徒が部活動を通して学校生活の充実を図っていると思われる。	【成果指標】 部活動に登録した生徒が全体の85%以上である。	部活動に登録した生徒の延べ人数が全生徒の A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	C、Dの場合、各部活動の活動内容・記録等を周知するとともに高校生活を通して部活動を続ける意義を実感させる取り組みを再検討する。	5月と10月に部加入率の調査を実施する。
				【満足度指標】 部活動が学校生活を活力あるものになっていると考えている生徒が加入者の80%以上である。	部活動が学校生活を活力あるものになっていると考えている生徒の割合が加入者の A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、各部活動の活動時間や内容等を検討する。	5月と10月に部加入生徒を対象に調査を実施する。
5 学校の魅力を積極的に発信し、保護者や地域から信頼される学校づくりを目指す。	① ボランティア活動後の振り返りを充実させ、自己の成長を実感させることで、ボランティア活動に積極的に参加する意識を一層高める。	生徒課 各学年 各部活動	地域から信頼される学校づくりを目指して社会に貢献できるボランティア活動の参加を促している。昨年度、ボランティア活動の参加延べ人数は、悪天候による中止などで前年を下回ったが、部活動単位で積極的な参加が見られた。	【成果指標】 ボランティア活動が学校生活の充実につながると回答する生徒が参加生徒の80%以上である。	ボランティア活動が学校生活の充実につながると回答する生徒が参加生徒の A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、活動計画の周知を徹底するとともに、活動の意義を実感させる取組を再検討する。	ボランティア活動後に参加生徒を対象に調査する
	② 学校ホームページをより閲覧しやすいように工夫し、保護者や地域、中学生やその保護者等への情報提供を一層充実させる。緊急連絡は、ホームページでも発信できるようにする。	副校長 総務課 図書・情報課	各課、学年及び部活動からの積極的な情報発信と内容の更新により、閲覧数は増加しているが更新の少ない項目があり、各分掌等で定期的に更新する必要がある。緊急連絡の発信は配信メールとあわせて効果的に活用できるとよい。	【満足度指標】 学校ホームページによって、本校の教育活動についてよく知ることができると回答した保護者等の割合が80%以上である。	学校ホームページによって、本校の教育活動についてよく知ることができると回答した保護者等の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合、提供する情報の内容等について再検討する。	7月と12月に学校評価（保護者）で調査する。 体験入学の中学生にアンケート調査する。